

ロトンダ



イタリア・ヴィツェンツァ

イタリアのヴェニスから、16世紀の当時では1時間の距離にあるヴィツェンツァの丘の上にロトンダというヴィラが建設された（1566-7）。建主はそこを故郷とし、ローマで名を上げた貴族パオロ・アルメリコ侯。そして設計したのは後に「建築四書」を残して世界の建築に大きな影響を与えたアンドレア・パラディオ（1508-1580）。

住宅の起源

ロトンダは住宅の起源とも、またピクチャレスク（絵画的）な建築の起源ともいわれる。当時、貴族は居城に住み、多くの使用人を抱えてプライバシーのあるものではなかった。貴族達は仕事の場としての居城の他に別荘（ヴィラ）を建てて、そこの休息の時間をもった。このロトンダもまたヴィラではあったが、アルメリコ侯が余生を独りで過ごすためのもので、つまり、居住目的の強いものとして住宅建築の起源として取り上げられる。また、その建築は丘の上に立ち、常に道行く人々からみられる建築であった。



修学旅行

18世紀になると英国の貴族階級はグランド・ツアー（修学大旅行）を行うのが一般的になり、仏～伊に至って、ラテン語とラテン文化に学んで帰る旅をしていた。もちろんその行程の中にヴェニスが主要な位置を占め、その道程の中にロトンドの姿があった。英国の誇る建築家であるイニゴ・ジョーンズ、クリストファー・レン、ロバート・アダムらもこうしてロトンドを見て帰り、その後英国にパラディオニズムを巻き起こし、その流れは更に米国にまで波及するのである。また、ゲーテも1786年にロトンドを訪れており、「どこからみても壮観な景観を呈する建築」と「イタリア紀行」の中で絶賛している。

三部構成

ロトンドはフィレンツェで花開き、ローマに至って端正な古典主義に発展したルネッサンス建築をパラディオ風に表現したもので、その特徴は垂直の面では主要階の上下に屋根と地上階をもつ三層構成、水平の面では三角破風と列柱で構成されたポルティコに窓一つの両側をもつ三列・三分割のデザイン原理にある。また、建物の対角線はほぼ東西南北を指して、どの面も陽が当たるようにし、四面の等質性を高めている。